

写

受理番号	陳情第 6 号
受理年月日	令和 7 年 8 月 6 日

陳 情 書

令和7年8月6日

ウォータースタンドについて

二宮町議会議長
前田 憲一郎 殿

田原 知規

陳情書



【陳情項目】

町内の小中学校に各2台ずつ設置している給水機(ウォータースタンド)のうち1台(合計5台)を冷水機能付きのものに換えて頂きたい。給水機の一番の利用者は部活動をしている生徒達なので、部活動のある二宮中学校と二宮西中学校については、できるだけ早急に換えて頂きたい。

【趣旨】

令和4年度、ウォータースタンド株式会社と『プラスチックゴミ削減の推進に関する協定』が結ばれ、プラスチックゴミ削減を目的に学校を含む町内公共施設に水道直結型の浄水給水機=ウォータースタンド(以下ウォータースタンドとする)が設置されました。大変に喜ばしいことですが、夏期の利用実態を見る限り、プラスチックゴミ(ペットボトル)削減に効果を発揮しているとは言えない状況だと思います。というのもこのウォータースタンドには冷水機能がなく、暑さが厳しい夏期においては、どうしても自動販売機で冷たいドリンクを買ってしまいがちになるからです(学校以外の公共施設では、ウォータースタンドの近くに自動販売機が設定されているのが常です)。

二宮町において、マイボトル運動によるプラスチックゴミ(ペットボトル)削減の一番の実践者は小中学生達です。児童生徒達は、毎日、水筒を学校に持っていきます。町内の小中学校には、各校2台ずつ計10台のウォータースタンドが設置されています。この10台はペットボトルの削減用というより(学校には自動販売機がないので)水筒・マイボトルへの補水用という位置づけだと思いますが、こども達は「冷水機能がついていたら良かったのに」と言っています。特に夏期は部活動をしている中学生にとって、とりわけ運動部で活動している生徒達にとってはマイボトルへの補水が必要です。朝早くに氷を入れた水筒にぬるい水をいれてもあっという間にとけてしまい夕方まではもちません。部活動のない生徒たちや小学生も体育の授業があります。熱中症予防の為にもこまめな飲水が大切ですが、冷たい水を飲んで体の内側から冷やす事が効果的な時もあります。また、高い保冷機能の水筒を持っていないこどももたくさんいます。

年々、夏の暑さが厳しくなる二宮町において、こども達の生命を守るためにも、2台あるウォータースタンドのうちの1台を冷水機能付のものに換えて頂きたいというのが保護者としての切なる願いです。

今年3月議会の予算特別委員会では、教育総務課長から氷を持参して浄水の出るウォータースタンドをもっと利用してほしいという発言がありました。環境への配慮から電気を使わない方針であることに加え、電気代が余計にかかることを町としては問題視しているようでした。ですが、これはおかしい話です。冷水機能をつけた場合、年間でどれだけ電気代が増え、どれだけCO2排出量が

増えるのでしょうか。それは子ども達の健康・生命よりも重いものであるとは考えられません。そもそもペットボトル削減が目的であるならば、学校のみならず他の公共施設のウォータースタンドにこそ冷水機能をつけることで夏期にペットボトルを買う人を減らせるはずです。冷水機能をつけることで増える電気代とそれによって減らせるペットボトルの消費量とその比較考量をした根拠となるデータがないならば、SDGs 推進と叫ぶのは詭弁ではないでしょうか？

フィルター機能のついた水道直結型であるウォータースタンドは、停電時でも浄化された水を飲む事が出来ると生活環境課の方が教えてくれました。すなわち冷水機能をつけると停電時に水が飲めないという事です。しかしながら各小中学校にはウォータースタンドが2台ずつあります。2台のうち1台を冷水機能付きにするということは、避難所としての機能を併せ持つ学校という施設において、電気が復旧すれば冷たい水を飲む事ができるという事に繋がります。(停電があっても1台が残っているので浄水を飲む事ができます。)もし酷暑の中で避難生活をしなければならないと仮定した場合、通電していれば避難者は冷水を飲んで暑さを凌ぐ事が出来るのではないのでしょうか？学校施設を避難所として考えた場合にも、避難者である町民の健康に寄与するのではないのでしょうか？

二宮町は2025年を「こどもまんなか元年」と謳っています。本当に「こどもまんなか」であるならば、生徒達の健康・生命を第一に考えるはずですし、子ども達が求めているものはできるだけかなえてあげるべきです。ウォータースタンドを冷水機能のついたものへと換えることについて、是非とも実現頂ければと願い、陳情申し上げる次第です。